

中高年期からの身長低下が高齢者の死亡率増加を予測する[§]

Height Loss Starting in Middle Age Predicts Increased Mortality in the Elderly

増成直美 藤原佐枝子 笠置文善 高橋郁乃 山田美智子 中村利孝

要約

本研究の目的は、ライフスタイルおよび身体的要因を考慮の上、日本人男女における死亡リスクと中高年期からの身長低下の関連を探ることである。1994–95年に健康診断を受けた47–91歳の男性755人と女性1,743人の合計2,498人を対象とし、2003年までの死亡の有無を追跡調査した。死亡リスクは、年齢層化Cox比例ハザードモデルを用いて評価した。性に加えて、被曝線量、および喫煙状況、飲酒習慣、総コレステロール値、血圧値、合併症といった基準時のライフスタイルや身体的要因を、全死亡率および死因別死亡率の解析時の調整要因とした。追跡期間中、全死亡302件、冠動脈疾患および脳卒中死亡46件、肺炎死亡45件を含む呼吸器疾患死亡58件、がん死亡132件が認められた。対象者の追跡人年は、基準時以降20,787人年であった。脊椎変形および大腿骨頸部骨折の既往は、死亡リスクと関連していなかった。しかしながら、2 cm以上の中高年期からの身長低下は、性、到達年齢、被曝線量、ライフスタイル、身体的要因を調整後も、なお対象者における全死亡率と有意に関連していた(ハザード比[HR]=1.76、95%信頼区間[CI]1.31–2.38、 $p = 0.0002$)。更に、2 cm以上の身長低下は、冠動脈疾患あるいは脳卒中死亡(HR = 3.35、95% CI 1.63–6.86、 $p = 0.0010$)、呼吸器疾患死亡(HR = 2.52、95% CI 1.25–5.22、 $p = 0.0130$)とも有意に関連していたが、がん死亡との関連は示さなかった。連続数としての身長低下も、また全死亡率、冠動脈疾患および脳卒中の死亡率と関連していた。身長低下と死亡率との関連は、脊椎変形のある対象者を除いた後も、なお有意性を示した。中高年期からの2 cm以上の身長低下は、潜在的リスク因子の調整後も、高齢者における心血管および呼吸器疾患死亡の独立したリスク因子であった。

[§] 本報告書は *J Bone Miner Res* 2012; 27(1):138–45 (doi:10.1002/jbmr.513) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が The American Society for Bone and Mineral Research の許可を得て作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。